

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2871101180		
法人名	医療法人社団 それいゆ会		
事業所名	グループホーム「かわも」		
所在地	宝塚市川面3丁目24番9号 (電話) 0797-85-5585		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年2月18日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「医療法人それいゆ会」が事業主で、児玉診療所が隣接している。4階建ての様々な多機能サービスを行っているビルの2階と3階にグループホーム「かわも」がある。ホームは、JR宝塚駅・阪急宝塚駅のすぐ北側の徒歩5分の交通の便利な位置にあり、ホーム前の道路は、送迎の車も行き来しており、交通量の多い斜面にある。平成16年7月に開設し、地域との結びつきが深まり、自治会・市社協・行政との連携も深まっている。管理者やそれぞれのユニットリーダーを中心に、蓄積された介護経験を活かした取り組みが実践されている。利用者や家族の希望・意向を汲み取るため、報告・連絡・相談などを徹底し、「安心・まごころ・ふれあい・結びつき」のあるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	理念に基づくケアを実践するため、改善課題について全職員で検討し、日々の介護に取り組んでいる。改善の成果は、行政や地域の関係機関との連携に現われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	日常の介護に追われることなく、ふれあいやゆとりの時間を作って、朝夕のミーティングや職員間のコミュニケーションを図ることによって、自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、自治会長・ケアマネジャー・保健師・市担当職員など、地域の様々な方が参加しており、地域との結びつきが深くなっている。毎回テーマを決めて意見交換を行い、改善に向けた取り組みにつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	毎月の「かわも」通信の発行や、日々の会話の中で積極的に家族とコミュニケーションを取るよう努めている。家族の状況によっては、夜間などに電話報告することもある。預かり金については、金銭出納帳を使って金銭管理の報告をしている。家族会は不定期開催であるため、家族からの意見や苦情が出やすい場として、行事開催時を活用している。出された意見については、職員ミーティング等で検討し、なるべく早く運営に反映できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域のお祭りや教会行事に、いつも参加することを心がけている。管理栄養士が栄養管理研修会を主催し、民生委員・自治会やホームヘルパー・職員が参加し、交流している。また、駅前の商業施設で開催された彫刻展に参加したり、近くの教会から外国人のコーラス隊の訪問があり、地域との交流を心がけている。

【情報提供票より】(平成20年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算	11.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 ~ 3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	89,000・90,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(500,000 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(700,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こだま病院 児玉診療所 藤沢歯科医院
---------	--------------------

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	それいゆ会の理念とは別に、グループホーム独自の理念を作成している。安心につながる日々の介護、また家族・地域に理解してもらおう機会作りに努め、地域との結びつきを深めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関・事務所・全職員の名札の裏に明示し、入職時や毎朝のミーティングで、理念に沿った実践となっているかふりかえりを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや教会行事に、いつも参加することを心がけている。管理栄養士が栄養管理研修会を主催し、民生委員・自治会やホームヘルパー・職員が参加し、交流している。また、駅前の商業施設で開催された彫刻展に参加したり、近くの教会から外国人のコーラス隊の訪問があり、地域との交流を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が4回目の第三者評価の受審であり、蓄積された介護経験を活かしながら、運営推進会議や職員のミーティングで検討し、改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議に、自治会長・ケアマネジャー・保健師・市担当職員など、地域の方々も参加しており、地域との結びつきが深くなっている。毎回テーマを決めて意見交換を行い、改善に向けた取り組みにつながっている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも話し合える機会として、市や地域包括支援センターからのサービス利用の依頼の問い合わせがあったり、市社協の会議のメンバーに属したりしている。また、市介護保険事業者協会の施設部会を通して、グループホーム同士のつながり作りに努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の「かわも」通信の発行や、日々の会話の中で積極的に家族とコミュニケーションを取るよう努めている。家族の状況によっては、夜間などに電話報告することもある。預かり金については、金銭出納帳を使って金銭管理の報告をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は不定期開催であるため、家族からの意見や苦情が出やすい場として、行事開催時を活用している。出された意見については、職員ミーティング等で検討し、なるべく早く運営に反映できるよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>これまで非常勤職員も含めて離職が少ない。新しく職員が採用された場合は、ユニットリーダーが指導し、まずは利用者へ5日間寄り添うことで、異動による利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の開催に際しては、研修会の案内を職員に回覧している。常勤・非常勤職員を問わず、積極的に参加を促している。ユニットリーダーが、日々の指導や面接を通して、新規採用職員や後輩職員に対してスーパーバイズする体制を整えている。</p>		<p>引き続き全職員が計画的に研修を受講できるように、職員一人ひとりのニーズに応じた段階的な研修計画の作成が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の介護保険事業者協会に属している。市内のグループホームの数は少ない状況であるが、グループホーム同士の見学や交流を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人病院に入院中の方の入居体験を受け入れたり、入居前にお茶や食事を利用してもらったりして、他の利用者や職員、またホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者同士や職員と共に、日々の生活をお互いに支えあい、楽しみながら暮らす関係になるよう心がけている。居室で孤立しないように、利用者皆で過ごせるような機会や場面設定をしながら、できるだけ家庭的な雰囲気のダイルームで過ごせる工夫をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや希望・意向を把握するように心がけている。思いや意向の把握の難しい人には、時間をかけて、態度や雰囲気から意向を把握するよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>「KOMIチャート(ケアプラン作成様式)」を利用して、本人や家族からの思いや意見を反映させながら、職員全体で分かりやすい介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は利用者に寄り添いながら、月に一度介護計画の見直しを行っている。月2回の往診があり、医師からのアドバイスを受け、利用者の状態変化を見逃さずに対応できるよう心がけている。その際は、事前に家族へ連絡や報告を行うようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かした受診支援や病院受診の付き添いに家族の都合がつかない時は、職員が家族の代わりに付き添うなど、状況に応じて対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のかかりつけ医だけでなく、皮膚科より週2回の往診や無料の歯科健診の往診がある。金銭の支払いに関しては、家族との直接契約となっており、薬の情報等を家族にも提供し、情報の共有に努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の状況に応じて、医師より家族に対して、ホームの方針について説明を行うなど、利用者と家族との話し合いの機会を設けている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への言葉使い・態度や話題に対して、気配りしながら尊厳を守る介護を心がけている。個人情報の管理については徹底しており、ロッカーに鍵をかけて保管するなど、秘密保持に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの一日のおおまかな流れは決まっているが、冬季の起床時間・居室での食事・入浴や2週間毎の外泊など、利用者の生活リズムを尊重している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>食事は暮らし全体の中でも重要な位置にあるので、利用者の嗜好を聞き取り献立を考えるなど、利用者にとって食事がより楽しみなものとなるような配慮が望まれる。</p>
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>立地条件・防犯上の課題はあるが、引き続きエレベーターの利用方法について、職員全員で話し合いの機会を持ち続けることが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>それいゆ防災規定・消防計画に沿ったマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。災害時の備蓄品として、レトルトパックや缶詰を病院と連携して準備しており、消火器具の点検も行っている。また、自治会長を通して地域と協力体制が取れるよう働きかけている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事や水分摂取量を毎日記録している。体重が減少や増加した際には、栄養士に相談して、利用者や職員の意見を聞き取りながら、食事量を調整している。夜間の水分補給の声かけなど、常時水分補給できるよう支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には、居心地のよい家具や椅子を配置し、心地よい音楽が流れ、手に取って見やすいアルバムを手元に置くなど、家庭的な雰囲気となっている。ホームの飾り付けはすっきりしており、利用者がなごめる空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、一人ひとりの思い出の品や趣味の作品を飾り、利用者の使い慣れた家具や調度品が置かれ、利用者が居心地よく暮らせるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。